



いわきうさぎ

YUKIUSAGI

いわき 岩谷医院会報 第10号(開院3周年記念号) 平成17年5月14日

岩谷医院

院長 岩谷 文夫 (循環器専門医、心臓血管外科専門医、健康スポーツ医)

副院長 岩谷 恭子 (循環器専門医、内科認定医、産業医)

開院して3年が経ちました

平成14年5月14日に開院して以来、3年が経ち、4回目の開院日を迎えることができました。『石の上にも3年』地域の皆様の医療のニーズにお答えできるよう、ヒヤシンス医療をモットーにスタッフ一同頑張ってきました。短いようで長く、長いようで短かった3年でした。近隣の患者さんとのほのぼのとしたやり取りは私達にとっても心温まる毎日ですが、時に来院されるいろいろな救急疾患の患者さんの緊急搬送と治療後の笑顔での再来院はこの上ない嬉しさとやりがいの瞬間です。正月当番医や休日当番医でのインフルエンザ戦争なども記憶に新しいところです。ここまで何とかやって来れましたのも福島医大をはじめ、多くの関連病院との病診連携のご協力、そして岩谷医院を支援して下さる皆様のおかげと改めて感謝いたしております。登録患者さんの数も2000名を越えました。開院4年目を迎えるにあたり、今までの医療を踏襲しながらも新たな地域医療を求めて、スタッフが一丸となって取り組む所存ですのでこれからもどうぞ宜しくお願い申し上げます。

院長より一言

開院4年目に際し、当院で作成している通院手帳を患者さんがどのように利用されているかアンケートをとらせていただきました。アンケートの集計は看護師の佐藤公恵さんが中心となってまとめてくれましたのでお読み下さい。私が思っていた以上に利用され、家族の方にも見ていただいているようで、嬉しく思っています。医院の印象や、ご意見も書いていただきましたが、その中に待ち時間に対する要望がありました。予約して来ているのに待たされるというのですが、予約外の方や、新患の方が間に入るとどうしても予約どおりにはいきません。副院長との調整でだいぶ緩和されるときもありますがもう少し工夫が必要と考えています。また医院の印象については有難いお言葉をたくさんいただきました。これからも努力して行く所存です。有難うございました。

個人情報に関する法律が4月から施行されましたが、通院手帳はあなたを守ってくれる極めて大切な個人情報です。いつも身に付けて大切に保管してください。



岩谷医院 4年目にむけて

—ポストゲノムの時代とは—

福島県立医科大学第二外科教授 竹之下 誠 一

私が日頃からご指導いただいております心臓血管外科専門の岩谷先生が開業されて4年目を迎えています。私は同じ外科医でも専門は腫瘍外科で、がんを扱う外科医です。この4年間に我々の分野では、大変大きな変化がありました。マスコミ流にいきますと、10年前は、遺伝子（DNA）という言葉がはやり、5年前はゲノムという言葉が登場し、あっという間に、我々はポストゲノムの時代に突入してしまったのです。そこでせっかくの機会ですので、紙面をおかり致しまして、この流れをわかりやすく解説します。

人間はおよそ60兆個の細胞からできています。親から受け継いだ遺伝情報（設計図）は、それぞれの細胞の核の中にある染色体と呼ばれる組織に収められています。この染色体の実体がデオキシリボ核酸（DNA）という物質で、人間の場合、引き延ばすと全長2mにもなります。またここでいう遺伝情報（設計図）とは、例えば、ニワトリの卵をいくら観察してもニワトリの形はみえません。しかし、卵はやがてニワトリになります。140年ほど昔、メンデル（メンデルの法則で有名）は、植物でも動物でも、形を形として直接伝えているのではなくて、形をつくるための情報（設計図）が、体のどこかに存在するのだらうと考えました。彼はその情報（設計図）を「遺伝因子」と名付けましたが、なかなか理解されませんでした。最近になってこれが、遺伝子（gene）とよばれ、アデニン（A）、チミン（T）、グアニン（G）、シトシン（C）というたった4種類の化学物質（塩基）が連なってできるDNAというもののなかに存在することが、わかったのです。また、このたった4種類の化学物質（塩基）は約30億個つながっているのですが、これら全体をゲノム（genome: gene+chromosome）と呼ぶようになりました。そして、20年ほど前から、米国では、この30億つながっている4つの文字の順番を決定するプロジェクトを始めました。様々な思惑を背景として、生命の設計図の解読に国家をあげて挑んだのです。当時、1500年かかるといわれたゲノムプロジェクトでしたが、まさに始まったIT革命のおかげで、2000年6月に、ほぼ30億分の4文字の順番が決定されたため、これ以後をポストゲノムの時代というようになったわけです。

医学の分野では、これ以後、これまで集団を対象としてきた医学が個人それぞれにふさわしい健康の回復・維持を目指す「個の医学」へと対応できる可能性が一気に現実化したのです。そしてこれが、テーラーメイド（オーダーメイド）医療といわれるもので、今後ますます定着していくと思われれます。

岩谷医院開業4年目をむかえた今、この時代の潮流の中で、岩谷先生も我々もこれまで同様かわることなくそれぞれの患者さんにふさわしい医療を展開していくのです。

私の……趣味の流れは……

福島市南沢又 尾形忠次

永い、長いお仕事も終えて、さて、此れからの長いようでもあり、短くもあるかも知れない人生が始まろうとしている時……

人生をどんな事に比重を置いて日々を送ればいいのかな等と改めて考えさせられる事がありました。

長い仕事の合間、現役として将来のこの日の何かを想像した時間があつたらうか。なかなか持てないままに現在に至つたような気がします。

そこで、今、考えられることは、……趣味の持ち方でしょうか……

趣味の、趣とは、おもむく……とある、味とは、あじ……とある。

趣味としての意味は、職業や専門でなく、楽しみとして好むものとありました。

と、すると現役中の者の趣味はもとより、仕事を終えて現役を去った者にとっての趣味は、生涯を通してとっても重要なものとなります。

そこで、趣味として香りのある物事について一つでも、若い時代から心がけておくことが、現役を去つてからの趣味として、楽しみとして、好んで継続出来る事となるでしょう。

成年時代の趣味の選び方、成年時代の趣味については仕事の責任制からも、趣味本位とはなかなか

らないままに、老年（退職近し）となり、退職後の趣味について、年金生活者としての趣味として生涯を通じての人生終着まで楽しむ事のできる趣味を常に考えながら、若年、成年そして老年と、各時代の経験をふまえて、自分にあつた、年齢にあつた、体調に合つた趣味を随時変更しながら楽しんで行きたいものと考えております。

その条件に合っている趣味は、絵画を、ゴルフを、盆栽を、陶芸を、カメラを少々、年齢に合つた趣味を、そして最も重要な体調管理については、平成二年から岩谷先生の暖かく厳しいご指導により何事もなく、無事現在に至っておりますことについては、心より有難く厚く御礼申し上げます。おかげを持ちまして、毎日楽しく、こつこつと私なりに、趣味に没頭出来ることを感謝しております。

残された人生は、生涯を通したい趣味、年相応にあつた趣味、体調に合つた趣味を生きがいとして静かに楽しく味わいながら、岩谷先生の御指導をいたしながら、承らえたいと考えております。



写真のはなし

小林 裕

岩谷医院が開院して三年になります。私が岩谷医院に通い始めて三年になります。そして院内に私の写真を飾ってもらうようになって三年になります。

医大の岩谷先生のもとに通っていた私は、当然のことながら岩谷医院に通うことになりました。最初に受診したとき先生に「もし差し支えなければ（下手な）写真をどこかに飾ってほだけないでしょうか」と伺つたところ快く承諾していただきました。以来、身長体重計測器の前が私の写真の展示場所となりました。毎月通院しているので、受診の度に写真を交換しています。

私が写真に興味をもつきっかけになったのは、父親がカメラを持っていたこと、私が小さい時毎日のように踏切に行つて列車を見ていたことです。鉄道ファンでもあるので基本的には鉄道を題材とした写真が主となります。風景写真は難しくあまり得意ではありません。写歴は三十年近いのですが腕前はさっぱりです。体調と相談しながらの撮影ですが、みなさんに何か感じてもらえるような写真をと出歩けるうちはいろいろなものを撮りたいと思っています。院内で写真交換の現場を目撃した際には感想などかかせていただければ勉強になりますし、私自身の励みにもなりますのでよろしくお願いします。

四国八十八寺を歩き終えて

福島市蓬萊町 飯 武勝

岩谷医院開院からの患者です。患者と云っても今のところ特別治療を要するところはないようですので、主として健康管理のための検査とアドバイスを受けております。

仕事は二年前に終え、現在は晴耕雨読の毎日です。(僅かな借地畑ではありますが……)

以前から仕事を終えたら一つの節目としてどこか遠いところを一人で歩いて見ようと考えておりました。元来、歩くことが好きで自信もありましたので「四国遍路」の他に芭蕉が辿った「奥の細道」や「県内九十市町村巡り」なども頭に浮かんでおりました。これらのことからもお分りのように四国遍路は信仰心から行ったわけではありません。

私から云うまでもなく、四国遍路とは弘法大師(空海)が自らの修行のため、また人々の救済を願って開いた四国霊場八十八寺を廻る巡礼の旅であります。全行程は千二百km程であり、八十八寺の番号にしたがって時計まわりに回るのが「順打ち」、その逆が「逆打ち」、一度に全ての寺を回るのを「通し打ち」、何度かに分けて回るのを「区切り打ち」と云われておりますが、私は「順打ち、区切り打ち」で歩きました。

最初は平成十五年十一月、徳島県の二十三寺(十日間)、二回目が十六年三月、高知県の十四寺(十日間)、三回目が同年十一月、愛媛県の二十七寺(十二日間)、そして今年三月、香川県の二十四寺(八日間)であります。四回の遍路で歩いた総日数は四十日でありましたので、一日平均三十km歩いたこととなりますが、四十kmを超えた日もありました。

このように歩くことが好きなことから楽しむ旅として始めた遍路でありましたが、金剛杖や白衣などの遍路用品を買い揃え寺々を参拝、また、みかんやお茶をご馳走してくださる「お接待」の方々と道中知り合った同じ遍路の人達との語らいの中で不思議と生きて健康であることの喜びや感謝の気持ちなど信仰心らしいものが芽生えてきたように感じられたのも事実であります。

一番霊山寺(徳島県)では、いざスタートという意気込みと合わせて不安でいっぱいでしたが、八十八番大窪寺(香川県)に着き合掌したときには足裏の豆の痛さも加わり、自然と涙が込み上げてきたのが忘れられません。

昨今、四国遍路をする人が増えていることが報じられております。物、金、競争社会の中で心のよりどころを必要としているのと無関係ではない様に思われます。

昨年、前民主党代表の菅さんも四国遍路をされたことが報道され、その中で「今の時代、自分の存在を見つめ直したいと思うことが多い。それも単にじっと考えるのではなく、体を動かす中で何かを感じ、納得したいのではないのでしょうか。」と云われておりました。私も同感であり、その舞台は四国遍路が最高であることを実感した旅でありました。



源平合戦の際、「義経」の身代わりとなって戦死した「佐藤継信の墓」にて(84番札所 屋島寺近く)

私の健康法

馬庭利全

私は退職してから十四年になりますが、それまで病氣らしい病氣をした事もなく、健康には自信を持っておりました。

それが七十歳のなかばになり徐々に体重がふえはじめ九十キロにもなり、それに伴って血圧も一五〇—一九〇になってしまい、今までの自信はどこへやら、岩谷先生に診ていただくことになりました。

それまでの生活習慣を見直すことで健康な生活を送れるとご指導を頂き次のことを心がけてきました。

食事 運動 休養(ストレス解消) 睡眠
食事については、野菜 魚を中心にして腹八分目にする(これが意外にむずかしかった)

運動は毎日スポーツセンターに通い、エアロバイク、ランニングマシンで各三十分づつ、水中歩行、水泳も各三十分づつ、ゆっくり二時間運動しその後サウナで汗を流し終わる。

生活の中での楽しみはストレス解消をかねて、趣味の麻雀・囲碁・将棋で、会話をしながら指の運動と頭の体操で、ボケ防止にもなり一挙両得とおもっています。

毎日、運動と趣味にいそしんでいるせいか、ストレスと無縁に過ごしています。
睡眠については、運動をしているせいか熟睡でき、気持ちよく目覚めることが出来ます。

生活習慣を見直すことで、体重も九十キロから八十五キロになり、血圧も上が一二〇、下は七〇と正常値になりました。

これからも、月一回の診察を通して健康管理、ご指導をよろしくお願いいたします。

新陳代謝

安達郡本宮町 久保恒義

私は、かつて一緒に仕事をした同僚などの人事異動の公表の報に接すると、「新陳代謝」という四字熟語が脳裏をよぎることが間々あります。それは、たまたま以前目にしたことがある言葉を連想的に思い出すからです。その言葉とは、「寒暑二代謝有り、人道 毎ニ茲ノ如シ」（陶淵明）や、「人事二代謝有り、往来 古今ヲ成ス」（孟浩然）といった詩の一節がそれなのです。今年には祝意を表した数が十指を超えました。

ところで、国語辞典で「新陳代謝」を引くと、(1)古いものが去り、新しいものがこれに代わること、(2)生物体が生存・活動に必要な物を体内に取り入れ、 unnecessaryなものを出すこと、などと記されています。新陳の「陳」は、陳腐という成語があるとおり、「古い」という意味です。また、「代」は取ってかわること、「謝」は去ってゆくことで、「代謝」は自然の変化や人間世界の変遷について使われるのがわかります。なお、付言しますと、論語に「温故知新」（故キヲ温メテ新シキヲ知ル）という言葉がありますが、現代の中国では「推陳出新」（古いものの中からよい部分を吸収して、そこから新しいものを創造する）という成語がよく使われるそうです。その点、人事に関しては、ただ単に新旧が交代するだけでなく、交代した新人は積極的に「推陳出新」するのを強く求められるようです。

さらに、前述の辞典の意味の(2)について言えば、健康問題は熱力学のエントロピー増大の法則と重ね

て考えることもできます。たとえば、コーヒーに入れたミルクは、やがて一緒に混じり合い、両者が自然に分離することはありません。死んだ動植物が腐敗するのは、生体を構成していた規則正しい構造がバラバラに分解してゆくからであって、ミルクがコーヒーに混じり合うのと同じように、秩序から無秩序への変化とみることができます。つまり、エントロピーとは、無秩序の度合いを表す指標なのです。したがって、私たちは秩序の維持・形成（＝健康の維持・増進）には、エントロピー値を小さく保つ必要があります。そうしますと、日々の生活が恬淡緩慢（あつさり）と、ものにこだわらず、ゆっくり生きる）にして、快食・快便・快眠であるかどうか、一つのみやすになりそうですが、さて……

私の健康法

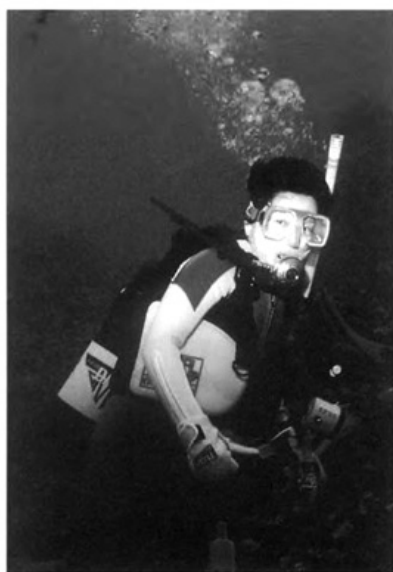
福島市矢剣町 小口勢江

(70才)

私の岩谷医院との始まりは、市民検診でコレステロール値が高く、それを下げる為の薬を飲んだ方が良いと奨められた時、「病気になるってしまっから治療するのは、大変だけれど、予防するのは簡単ですよ。」とおっしゃられた先生の言葉で、納得した事です。

私の健康法の一つは、週二回、プールで泳いでいる事です。泳いだ後の心地良い疲れは、とても気持ち良いものです。それと、何にでも興味を持って、やってみる事でしょうか。十数年前より、スキューバダイビングを始めたり、謡曲を習ったり、仕舞を習ったり、古い着物を裂いて、裂織をしたり、毎

日、とても忙しく過ごしております。特に、ダイビングでは、南の島の海に潜って、水中カメラで魚の写真を撮ったり、とても楽しいです。浦島太郎の龍宮城とは、このコトかしらと、思っています。左の写真は、ギンガメアジの群と、水中の私です。



坂大りんさんと小丸孝也さんに医院より記念品贈呈

『ゆきうさぎ』発刊以来お二人には毎回心温まるご投稿をいただいております。10号(3周年記念号)を記念して医院より感謝の記念品を贈呈いたしました。これからも益々お元気でよい作品を作ってください。



坂大りんさん



小丸孝也さん

祝 開院3周年、会報「ゆきうさぎ」
10号発刊に寄せて

福島市蓬萊町 小丸孝也

医院開業3周年誠におめでとうございます。

院長先生はじめ、医院を支えてこられましたスタッフご一同様に心から感謝とお礼の気持ちを申し上げます。

ヒヤシンス医療を目指して3ヵ年、地域に根ざした、いわゆる「患者にやさしい」ホームドクター(活動)へ限り無く敬意を表します。

特に医院会報「ゆきうさぎ」を通じた【先生と患者】【スタッフと患者】さらに「地域との連携」など、他面的な心の交流は、医療への信頼を深め、掛け替えのないものと思います。

患者が医院に(喜んで)行きたいと思う雰囲気、このほのぼのとした暖かいジーンとしたものが、岩谷医院のすべてで、かつ、心身の健康に最高と思う今日この頃です。

私は県職員OB、約40年前、農山村(南会津)で公務員(家畜保健衛生所)獣医師として最後の臨床活動を経験した1人です。

国土保全の基本につながる農山村(振興)の明日を信じつつ……今もまた。

さて、身近に岩谷先生に接しさせていただいている中、獣医師会の役職を担うことになりました。

今更ながら、心のドクター:岩谷先生の存在の大きさを実感しています。

獣医師界にも優れた先生が多くおられます。アニマルドクターからの発信:獣医師版「ゆきうさぎ」が登場することを念じつつ投稿させていただきます。



短歌、俳句、川柳

(短歌)

人命を預かる医の声 美しく
待合室に 明るく 聞こゆ

●坂大りんさん(福島市佐倉下)

(俳句)

少年の 夢の続きを 3周年
球春の風 永遠に伝えり
辛夷(こぶし)咲く 看護婦さんの 髪飾り
五月雨や 涙をかくす 袖屏風
ゆきうさぎ 耳で受けとる 感謝状

(川柳)

●小丸孝也さん(福島市蓬萊町)

(川柳)

親バカ
この世には 親の数ほど バカがいる
モノの溢れ 与えて不満 残るだけ
未知数を 引き出しあぐね 今日も塾
知らない 知らないことが 多くなる
そうかもね 知らないけれど 相槌を

本音
生き上手 本音も吐かず 音も上げず
世の中は 本音と建前 同居する
まあまあ
いいじゃない まあまあ主義で いいじゃない
余る
日々老化 命の残り 神が知る
年度末 余った税(金)は 道に埋め
何もせず 後半人生 持て余し

男

新国王 コンクラーベで 根回しか
バランス食 独りやもめの チン頼み

(俳句)

花粉症 美人のママも 鼻たらし
藍さくら ナインティーンの 好パット
雪解けに 豊穣の秋 託しけり
土の香を 跣(はだし)でとらえ 鍛始
節分や 奉納演武 厄を斬る
水仙の 生きる証や 雪を被(き)て

(短歌)

●阿部スチノさん(福島市笹木野)
春かすみ 西を上げば やま山は
青葉の節に 雪うさぎ見ゆ

＜岩谷医院通院手帳に関するアンケート結果報告＞

岩谷医院スタッフ一同

アンケートにご協力頂き、有難うございました。集計結果をお知らせ致します。

(200名の方に、アンケートをお願い致しました。)

1) 通院手帳は、どのようなときに携帯していますか？ (重複回答)

- 1. 常に携帯している 81名
- 2. 岩谷医院に来るときだけ携帯する 102名
- 3. 他の医療機関にも持っていく 64名

2) 通院手帳の内容は自分で見ることがありますか？

- はい 189名 (94.5%)
- いいえ 11名 (5.5%)

年に何回ぐらいですか？

- ・ 1～12回 139名 (87.4%)
- ・ 13～24回 18名 (11.3%)
- ・ 25回以上 2名 (1.3%)

3) 通院手帳を家族の方に見せたことがありますか？

- はい 120名 (60%)
- いいえ 80名 (40%)

4) 通院手帳が役に立ったことがありますか？

- ある 175名 (87.5%)
- 特にない 25名 (12.5%)

どのような時？ (重複回答)

- 1. 自分のデータをいつでも見ることが出来る 148名
- 2. 家族に自分の通院状況を知ってもらえる 57名
- 3. 他の医療機関を紹介されたとき 64名
- 4. 夜間および休日に具合が悪くなったとき 28名
- 5. その他

- ・ 体重管理
- ・ 旅行に行くときに持参すると安心
- ・ 職場に提示して、産業医にも知ってもらう
- ・ 他病院を受診したとき、薬の内容・経過を知ってもらえる

5) 通院手帳に関して要望・意見・感想として

- ・ 今までにないことなので、自己の体調管理のうえで良いと思います
- ・ 家族も手帳を見て、安心しています
- ・ 他の医療機関でも体調を納得していただける
- ・ 病名の中で、治癒したものは、抹消してほしい
- ・ 家族が見たとき、日常生活上の注意点などを書いてほしい

6) その他 (岩谷医院に関して)

- ・ 休診日の、急変時の対応を知りたい
- ・ 待ち時間が長い
- ・ 予約の方を、優先的に診察できないか

* おほめのコメントは、削除させて頂きました。

以上の結果となりました。私たちが思っていた以上に、通院手帳が活用されていた事がわかりました。良い評価を頂いた部分は継続し、治癒した病名は抹消する、注意点を書き込むなど、通院手帳は、患者さんと先生の協力で作り上げて行くものです。遠慮なくお話し下さい。

急変時の対応の方法が分からない場合には、当医院に電話連絡 (休診時は、留守番電話に、症状と患者さんの電話番号を入れる) 下されば、先生がアドバイス致します。

待ち時間や、予約診療の件は、今後の課題として検討して行きたいと思えます。

これからも、皆さんの良きホームドクターとして評価して頂ける様に、スタッフ一同、頑張っ行って行きたいと思えます。今後とも、よろしくお願いたします。

医院からのお知らせ



【福島市民検診のお知らせ(予定)】

- 1) 実施期間
平成17年7月1日(金)~11月30日(水)
- 2) 検診内容
基本検診、肺がん一次検診(胸部レントゲン検査)、
大腸がん一次検診(検便)、肝炎ウイルス検査

【個人情報保護に関して】

当院では個人情報の取り扱いには細心の注意を払っています。個人情報の利用目的については院内に掲示してありますのでご覧ください。

個人情報の取り扱いについてお気づきの点がありましたら受付までお気軽にお申し出下さい。

【診療について】

副院長は火曜、水曜の午前中のみ大原総合病院での診療になります。それ以外の日は、院長、副院長の2人体制になりますので、以前より待ち時間は少なくなっています。また診察の順番は患者さんの状態により変わることがあります。ご了承下さい。

【駐車場について】

医院横の7台の駐車スペースの他に小島薬局の駐車場も空いている場合には利用可能ですので受付にその旨お知らせ下さい。雨のときは駐車場および玄関前はすべりやすくなっていますのでお気をつけ下さい。玄関にはタオルを用意しておきますのでご自由にお使い下さい。

保険証：保険証は事務処理上毎月必要となりますので、その月の初回来院時には必ず受付に提出してください。

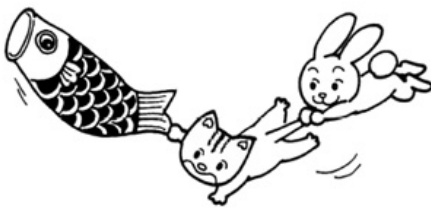
小島薬局だより

岩谷医院3周年に寄せて

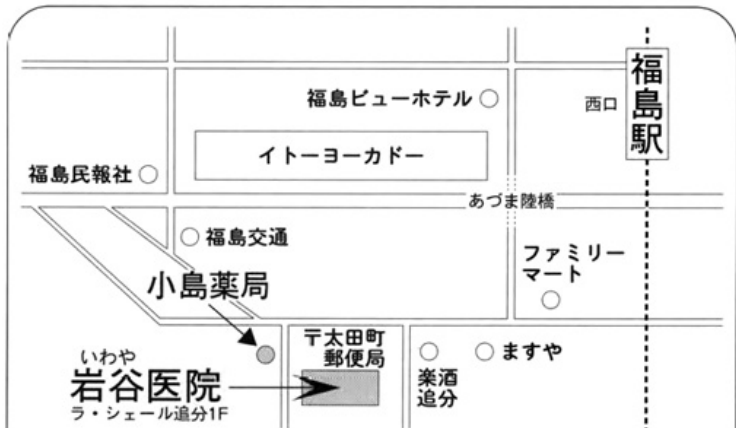
岩谷医院開院3周年おめでとうございます。この地域も岩谷医院開院まで20数年にわたり医院のない町でしたが、いまでは安心して暮らせる喜びを感じている方が多いと思います。私たち小島薬局スタッフ一同も岩谷先生のヒヤシンス医療の精神を見習い、医薬品を通し皆様の日常生活の相談相手を努めて参りたいと考えております。

過日、私の中学時代の同級生で、現在SIDS(乳幼児突然死症候群)研究者の仁志田博司博士の講演をお聞きする機会がありました。その中で、この間亡くなられたローマ法王に直接お会いしたときの話をされましたが、法王は言葉とは辞を発するだけでなく、心も合わせ伝わることが大切といった旨の話をされたそうです。その目は赤ちゃんのように優しく、博士は感動に涙したそうです。

相手を思いやる心がより良い社会を作り、より良い社会からやさしい心が育つと言われております。これからも、暖かいやさしさを持ち続け皆様のお役に立ちたいと考えております。



※ 『ゆきうさぎ』3周年記念号はたくさんの皆様からご投稿いただきました。本当に有難うございました。特に竹之下教授にはお忙しいところを、快く引き受けていただきました。福島医大在籍中からのお付き合いで私が尊敬する医療人のお一人です。『ゆきうさぎ』は皆様の会報です。どんなことでも結構ですので是非ご投稿ください(院長)。



【福島駅西口より 徒歩7分】 〒960-8068 福島市太田町17-27
ラ・シェール追分1F

でんわ 024-528-7770/FAX 024-528-7780

★ 診療時間 ★

平日(木曜日を除く)は 午前9時~12時 午後2時~5時30分
土曜日は 午前9時~午後2時(昼休みなしで診療いたします)
休診日は 日曜日・祝祭日・木曜日

★ 診療項目 ★

内科疾患・循環器疾患・動脈疾患・先天性心疾患・人工弁管理・
ペースメーカー管理・人工血管管理・基本検診 など